

## 2年間の観測データに基づくひまわり8号AHIの較正評価

奥山 新・高橋昌也・伊達謙二・保坂啓太・村田英彦・田端 将・吉野良子

### 要旨

平成27年(2015年)7月7日に運用を開始した静止気象衛星ひまわり8号は、16のバンドを観測するAdvanced Himawari Imager(AHI)を搭載しており、従来の気象衛星と比べると空間分解能や観測頻度が大きく向上している。こうした機能向上は、気象現象の監視のみならず気候学的な研究にも資すると期待されている。そのために重要な、放射輝度観測値の較正手法とその評価結果について本稿で説明する。なお、位置合わせの精度については1 km以下と評価している。較正評価の結果、赤外バンドの観測精度は0.2K以内と見積もられており、顕著な日変動は認められていない。評価手法はGSICSの枠組みの元で開発されており、今後も評価を継続する。可視近赤外バンドについても複数の手法で評価を進めており、本稿で示す二つの手法ではおおむね整合的な結果を得ている。